

「泳ぐ」より「うく」

夏休みなどに、池や川の近くで遊ぶのはたいへんきけんなのでやめましょう。ここでは、服を着たまま水に落ちてしまったときのため、「着衣泳」について学びます。

ういて助けを待とう

む理に泳ごうとせず、ういて助けを待つことが大切です。



↑ 着衣泳のじゅ業 (姫路市立形小学校)

うきつづけて待つポイント

- 大の字であおむけのしせいになり、体の力をぬく
- 服やくつはぬがない
- 手をふって助けをよばない
- 大きな声を出さない

東日本大しんさいでは、つ波に流されながらあおむけになって力をぬき、ういていることで、助かった人がいます。

池や川に落ちた人を見つけたら、まわりの助けをよびましょう。



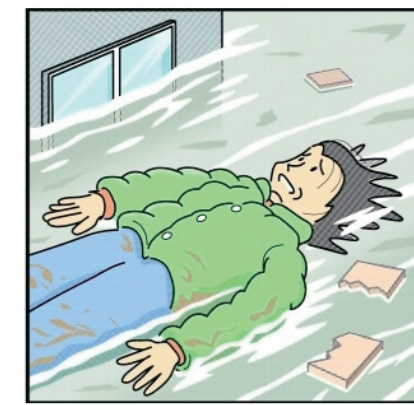
助けをよぶと同時に、うくものを投げこむといいだね。



大勢の住民が避難してきた宮城県東松島市の市立野蒜小学校。体育館で余震を怖がる児童たちを勇気づけていた木島美智子校長(55)は、グラウンドでワゴン車が浮き上がったのを見た。
水が体育館に流れ込んでくる中、1階に残って児童と住民を体育館のステージと2階に避難させた。間もなくして水がひさまで迫ったと思うと、すぐに150センチの身長を超えた。茶色い水で視界は閉ざされ、息がでなくなった。

逃れた危機 津波 身を守った行動

▶ 5 着衣泳



「子どもたちを守り切りたい」。冷静を取り戻して、毎年プールの授業で「着衣泳」を思い出した。児童名簿を詰め込んだ手提げかばんを離し、あおむけになって力を抜くと体が浮いた。「もがけないように心がけたら浮くことができた」と振り返る。
同校で教える水難学会の安倍淳さん(52)は「着衣泳は泳ぎ方ではなく浮き方。無理に泳ごうとせず、浮いて救助を待つことが大切」と強調する。た。安倍さんによると、人

「泳ぐ」より「浮く」
「子どもたちを守り切りたい」。冷静を取り戻して、毎年プールの授業で「着衣泳」を思い出した。児童名簿を詰め込んだ手提げかばんを離し、あおむけになって力を抜くと体が浮いた。「もがけないように心がけたら浮くことができた」と振り返る。
同校で教える水難学会の安倍淳さん(52)は「着衣泳は泳ぎ方ではなく浮き方。無理に泳ごうとせず、浮いて救助を待つことが大切」と強調する。た。安倍さんによると、人

↑ 2011年7月6日 神戸新聞朝刊 (提供 神戸新聞社)